

地域言語特論 B

2 units (selection) 1st-year(1st semester), 2nd-year(1st semester)

Mitsuaki Senba · PROFESSOR / COMMUNITY DEVELOPMENT STUDIES, REGIONAL SCIENCES

Target) 1. 語彙の研究課題には、どのような領域があるか、その全体像が把握できる。 2. 語彙の研究課題発見に、どのようなアプローチがあるか把握する。 3. 語彙研究の適切な方法を理解し、各自の課題を獲得する。

Outline) 主として語彙の体系的分析と史的研究を中心的な課題として、基礎を見直しつつ、そのより高度な研究方法を講義する。語構成、語彙の体系、意味及び意味の変化等が重点項目になる。文献資料とフィールド調査とを総合的に検討しながら、地域言語を日本語の歴史や全国的視野の中で捉える態度を育てる。また、地域文化の特徴を捉え、広く地域に貢献できる方策を考えるとといった視点も意識し、関連の諸領域への目配りを促す。

Goal) 語彙研究の適切な方法を理解し、各自の課題を獲得する。

Schedule)

1. 言語の単位の取り出し方
2. 「単語」の性質
3. 語構成のパターン
4. 語構成の分析と語源追究の方法(阪倉、堀井などを参考に)
5. 語構成の分析と語源追究の方法(「おびゆ → おぶける」等、方言語彙を例に)
6. 語彙の体系(さまざまなとらえ方)
7. 類義語
8. 対義語
9. あらためて意味とは何か
10. 意味の変化(語誌のケーススタディ 「やさし」「かなし」等)
11. 意味の変化(語誌のケーススタディ 身体語彙等を素材として)
12. 語形の変化と意味の変化(語誌のケーススタディ 「芝生」、「あはれ/あっぱれ」等)
13. 語形の変化と意味の変化(語誌のケーススタディ 「おまえ」「おめえ」等)
14. 語形の変化と意味の変化(語誌のケーススタディ 「にんげん」と「じんかん」(人間))
15. 語形の変化と意味の変化(語誌のケーススタディ 「うんくわ」と「おんわ(温和)」等)

Evaluation Criteria) 語彙史・語誌(方言語彙を含む)・語彙の体系等に関する論文(レポート)提出。

Re-evaluation) 論文の再提出。

Textbook) なし。

Reference) 『講座日本語の語彙語彙』(明治書院), 『国語語彙史の研究』(和泉書院)など。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218163>

Note) 受講生の構成・学習歴を見て、授業内容を変更する場合があります。